

福井工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	公共社会 I
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	物質工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『公共』（東京法令出版）				
担当教員	中谷内 悠				
到達目標					
(1)人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解するとともに、自らが公共的な空間に属する主体であることを理解する。 (2)歴史、文化、宗教的背景を踏まえて、先人の思想を正しく理解できること。また、先人の思想を手掛かりにして、自己の生き方や他者と共に生きていくことの重要性、公共的な空間における人間としての在り方生き方について考えることができる。 (3)「幸福」「自由」「正義」「公正」などの公共的な観点から多様な思想について学び、現代社会の特質やその制度、倫理的課題について様々な角度から理解できること。 (4)民族、宗教や生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会を尊重することの重要性について考察できる。 (5)倫理的な問いについて、自分の世界に引き付けて主体的に探究し、自分や他人の論証を理解することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	青年期の意義と自己形成の課題について、主体的に公共空間に参画することの重要性について十分に理解している		青年期の意義と自己形成の課題について、主体的に公共空間に参画することの重要性について概ね理解している。		青年期の意義と自己形成の課題について、主体的に公共空間に参画することの重要性についてほとんど理解できない。
評価項目2	歴史、文化、宗教的背景を踏まえて、先人の思想を正しく理解し先人の思想を手掛かりにして、自己の生き方や他者と共に生きていくことの重要性、公共的な空間における人間としての在り方生き方について考えることができる。		歴史、文化、宗教的背景を踏まえて、先人の思想を正しく理解し先人の思想を手掛かりにして、自己の生き方や他者と共に生きていくことの重要性、公共的な空間における人間としての在り方生き方について考えることが概ねできる。		歴史、文化、宗教的背景を踏まえて、先人の思想を正しく理解し先人の思想を手掛かりにして、自己の生き方や他者と共に生きていくことの重要性、公共的な空間における人間としての在り方生き方について考えることがめったにできない。
評価項目3	「幸福」「自由」「正義」「公正」などの公共的な観点から多様な思想について学び、現代社会の特質やその制度、倫理的課題について様々な角度から理解できる。		「幸福」「自由」「正義」「公正」などの公共的な観点から多様な思想について学び、現代社会の特質やその制度、倫理的課題について様々な角度から概ね理解できる。		「幸福」「自由」「正義」「公正」などの公共的な観点から多様な思想について学び、現代社会の特質やその制度、倫理的課題について様々な角度からめったに理解できない。
評価項目 4	民族、宗教や生活文化の多様性を理解できる。		民族、宗教や生活文化の多様性を概ね理解できる。		民族、宗教や生活文化の多様性をめったに理解できない。
評価項目 5	倫理的な問いについて、自分の世界に引き付けて主体的に探究し、自分や他人の論証を理解することが十分にできる。		倫理的な問いについて、自分の世界に引き付けて主体的に探究し、自分や他人の論証を理解することが概ねできる。		倫理的な問いについて、自分の世界に引き付けて主体的に探究し、自分や他人の論証を理解することがめったにできない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 RA1					
教育方法等					
概要	哲学や倫理の重要な概念や問題、そして考え方について、哲学者や倫理学者など先人の思想から学習する。特に「幸福」「自由」「正義」「公正」という観点を中心に、現代の諸課題について理解し、まわりの人たちと対話しながら、現代の公共的な空間における人間のあり方について考察する。また、これらの倫理的考察が、技術をとりにく問題を捉える際に多くの示唆を与えてくれることを理解する。				
授業の進め方・方法	『公共』の教科書を用いる。先人の思想を手掛かりにして、公共的な空間におけるさまざまなテーマについて課題を通じて考察する。板書やプリントを用いた講義を中心に行うとともに、グループで対話する。学生の理解度をはかり、思索の深化を促すために、授業中に複数回の課題やレポートを書いてもらう。				
注意点	レポート（50%）、授業中に出す課題（50%）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス 倫理では何を学ぶのか？	倫理では何を学ぶのか、どうして倫理を学ぶのかを理解し、説明することができる。	
		2週	自由の倫理（1）	どのような場合に自由の制限は認められるのか、という問題について理解し、考察し、説明することができる。	
		3週	自由の倫理（2）	どのような場合に自由の制限は認められるのか、という問題について理解し、考察し、説明することができる。	
		4週	自由の哲学（1）	自由に関するいくつかの理論を理解し、説明することができる。	
		5週	自由の哲学（2）	自由に関するいくつかの理論を批判的に考察し、自身の考えを述べることができる。	
		6週	論述の書き方	論述の仕方について理解し、実際に小レポートの構造を書く。	
		7週	幸福について（1）	幸福とは快楽であるという考えを理解し、その観点から幸福について考察する。	

後期	2ndQ	8週	幸福について（2）	幸福とは欲求が充たされることであるという考えを理解し、その観点から幸福について考察する。
		9週	幸福について（3）	幸福とは欲求が充たされることであるという考えについて、思考実験を通じて批判的に検討する。
		10週	幸福について（4）	幸福に関する主観的な考え方について理解し、批判的に考察する。
		11週	人生の意味について（1）	人生の意味に関する思想を理解し、自身で考察し、説明することができる。
		12週	人生の意味について（2）	人生の意味に関する思想を理解し、自身で考察し、説明することができる。
		13週	青年期の課題とライフキャリアの形成（1）	青年期の課題について理解する。自身のアイデンティティに意識を向け、それを言葉で表現することができる。
		14週	青年期の課題とライフキャリアの形成（2）	ライフ・キャリアについて理解し、自身のアイデンティティを踏まえたうえで、その構想を立てることができる。
		15週	前期まとめ	振り返りとまとめ
		16週		
	3rdQ	1週	後期のガイダンス 倫理的な問題の考え方	倫理的な問題の考え方について理解し、具体的な事例において自身で考える。
		2週	肉食とベジタリアニズム（1）	ベジタリアニズムについて理解し、肉食が正当化される理由について考察する。
		3週	肉食とベジタリアニズム（2）	宗教や文化、生活様式など、社会のなかの多様性について理解する。多様性を包摂することの重要性を理解するとともに、多様性から生じてくる倫理的な問題について考察する。
		4週	差別について（1）	何をすべきかは文化や宗教によって異なるという考えを理解し、批判的に考察する。
		5週	差別について（2）	何をすべきかは人によって異なるという考えを理解し、批判的に考察する。
		6週	正義について（1）	行為がもたらす結果だけから行為の正しさが決まるという考えについて理解し、批判的に考察する。
		7週	正義について（2）	行為がもたらす結果だけから行為の正しさが決まるという考えについて理解し、批判的に考察する。
		8週	正義について（3）	義務と善き動機について理解し、考察する。
		9週	文化、宗教の多様性と相対主義（1）	義務と善き動機について理解し、考察する。
		10週	文化、宗教の多様性と相対主義（2）	差別とは何か？単なる区別とはどう違うのか？について考察する。
		11週	生命倫理（1）	人間、生命の尊厳について理解する。生殖補助医療や終末期医療に含まれる倫理的な問題について考察する。
		12週	生命倫理（2）	人間、生命の尊厳について理解する。生殖補助医療や終末期医療に含まれる倫理的な問題について考察する。
		13週	生命倫理（3）	人間、生命の尊厳について理解する。生殖補助医療や終末期医療に含まれる倫理的な問題について考察する。
		14週	生命倫理（4）	人間、生命の尊厳について理解する。生殖補助医療や終末期医療に含まれる倫理的な問題について考察する。
		15週	宗教と倫理 後期まとめ	さまざまな宗教の信条や価値観について理解し、説明できるようになる。振り返り
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前2,後9,後10,後15
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15
	工学基礎		技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前6,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14
			グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後15
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	後15
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	後15
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	後14

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合			
	レポート	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0